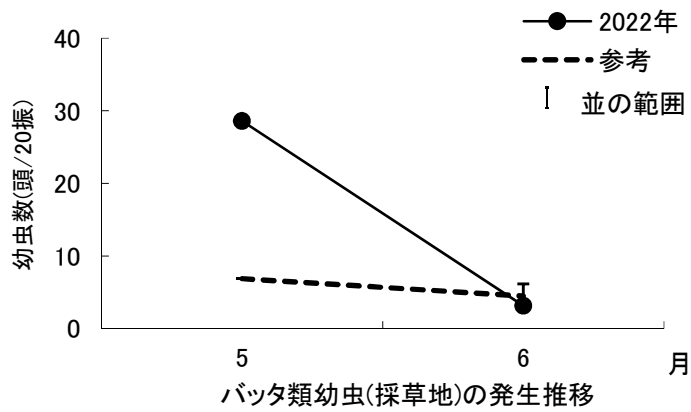


作物	さとうきび		地域	宮古群島
病害虫名	バッタ類			
調査結果	6 月の発生量 (平年比)	—		
予報	6 月からの増減傾向	—		
	7 月の発生量 (平年比)	—		
予報の根拠				

調査結果


今期と平年の推移



・発生種：台湾ツチイナゴ

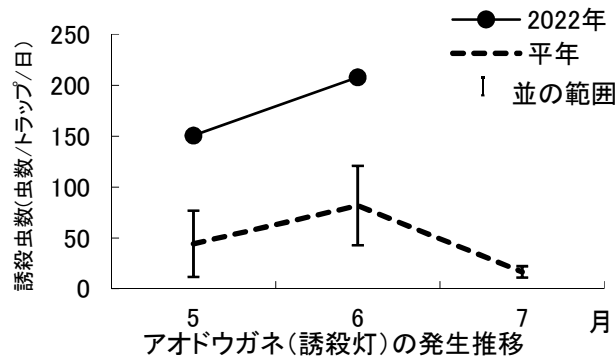
防除のポイント

- ・発生源となるほ場及び周辺のイネ科雑草の除草を徹底する。
- ・幼虫期の防除が効果的なので、ほ場周辺の見回りを行い幼虫の早期発見・防除に努める。

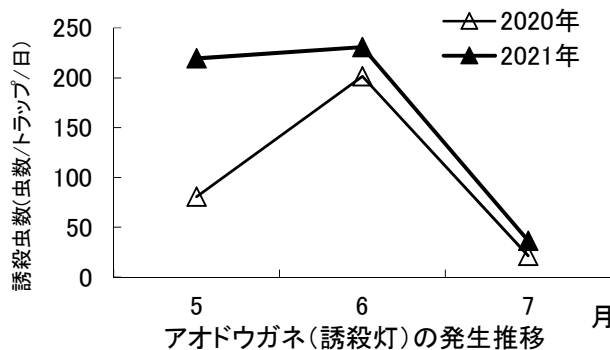
作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	① アオドウガネ		
調査結果	6 月の発生量 (平年比)	多	
予報	6 月からの増減傾向	↓	
		7 月の発生量 (平年比)	多
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)	

調査結果

今期と平年の推移




過去2年の推移



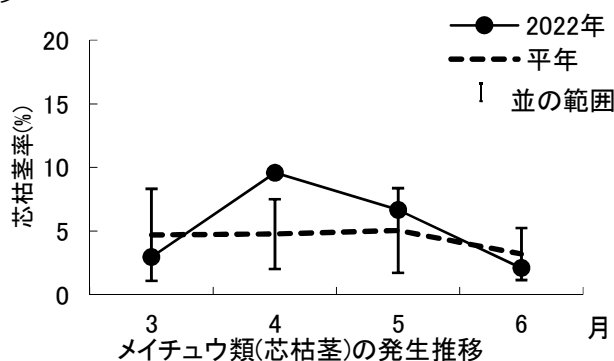
防除のポイント

- ・サトウキビにおけるアオドウガネ被害は、土壌中に生息する幼虫が9月～11月頃作物地下部を食害することにより生じ、収穫期の立枯による減収や株出不萌芽の原因となる。
- ・成虫は5～7月に出現し、テリハクサトベラ等植物の葉を集団で摂食する。食餌植物上で交尾した後地中0～10cm深に産卵する。
- ・成虫発生時期の誘殺灯による大量誘殺、6～9月の幼虫若齢期の薬剤処理及び収穫後のロータリー耕による防除を実施する。

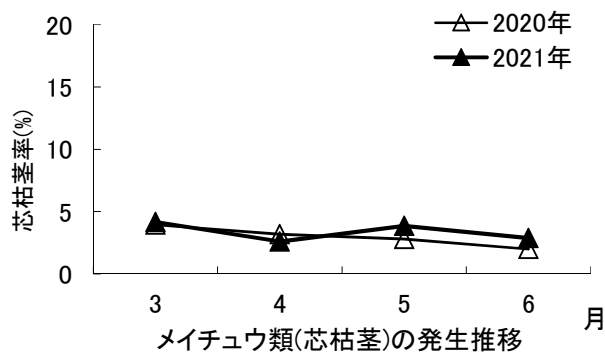
作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	メイチュウ類(カンシャシンクイハマキ・イネヨトウ)		
調査結果	6 月の発生量 (平年比)	並	
予報	6 月からの増減傾向	—	
	7 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

今期と平年の推移



過去 2 年の推移



・発生ほ場率：90.0% (平年値：78.4%)

防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。